

新潟県

平成3年

公民館月報

11月

第465号

シリーズ「関ブロ公研集会に学ぶ」(1)

地域に公民館のタネが生きている



それぞれの

風景の中の色と形

愛しみ

育はぐくんできた蕾つぼみが

静かに解かれ

美わしく整えられてゆく

鮮かに深まっていく季節

この花の薫りの中で

たぐり寄せられる思い出

奏なまでる秋に心満たされ

又一つ

重ねてゆく 時間

飯島靖子

(地平の会)

第2回評議員会開催

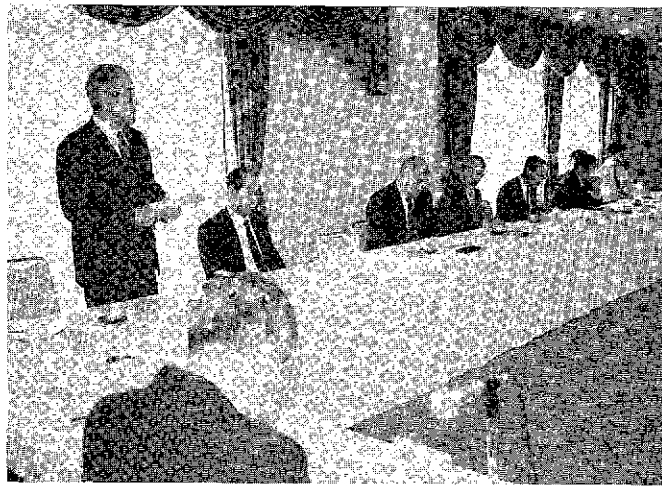
来年度県公民館大会

両津市市民会館で

去る10月15日(火)、新潟市平安閣において今年度第2回評議員会が開催された。

平成2年度歳出歳入決算の承認、第32回関プロ公研集会の総括報告、平成4年度県公民館大会を佐渡公連主管により両津市で開催される案件が提出され、それぞれ原案どおり承認決定された。

出席評議員27名、欠席者8名(うち6名は委任状提出)で定刻13時30分開会。



監査結果報告中の宮川監事

会長から、関プロ公研集会の好評だったことと、一致協力していただいた県内関係者への感謝の辞が述べられた。

議長に小千谷市公民館長羽鳥昌治氏を選出し、報告事項

一、平成3年度県公民館会務中間報告(略)

二、全公連等上部団体の活動状況中間報告(略)

三、第32回関東甲信越静公民館研究集会の総括(略)

審議事項
一、平成2年度歳入歳出決算の承認

歳入 一、一〇九、九〇一円
歳出 一、二五九、七九八円
差上引残高 八五〇、一〇三円

差引残高は平成3年度一般会計へ繰入れ。

監査結果は、監事代表宮川雅晴氏(東浦津川町公民館長)によって異状なく処理されている旨報告があり承認された。

二、第43回県公民館大会の主管について

主管は佐渡公民館連絡協議会が当たり、両津市市民会館を会場とすることに決まった。

なお、佐渡会場ということから、来年度に限って一泊二日の日程とし、概要次のとおりとするものが了解された。

1、日時 平成四年10月28日

(水) 29日(木)

2、参加費 一万三千五百円

内訳 資料代 千五百円
宿泊費 一万二千元

また、第一日目の昼食は、参加費とは別に、希望者に五百円で斡旋することとなる。

大会主題や日程の詳細などの内容については、今後主管佐渡公連と県公連事務局との間でつめ、来年度第一回評議員会で決定する運びとなる。来年度の予算要求に向けての積算資料として、経費に関する部分を明らかにした。

第一回編集委員会開催

「関プロ集會に学ぶ」をシリーズで特集

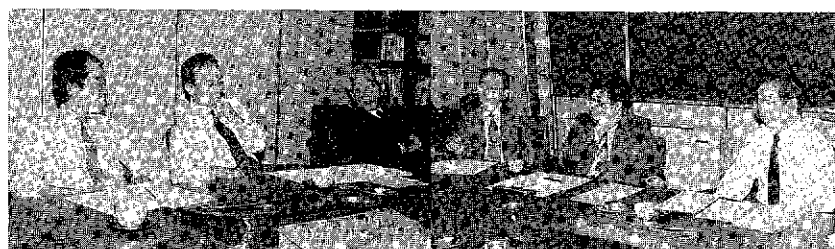
去る10月4日(金)、新潟市中央公民館において、来年度第一回の県公連編集委員会が開催された。

会議の内容は、「県公民館月報」下半期の編集に関する検討にあった。

その第一は、関プロ公研集会を主催するという得がたい機会を迎えたことから、可能な限り啓発的情報を取り上げることとした。特集「関プロ公研集會に学ぶ」というテーマのシリーズを組むことにした。まず第1号には、全体発表における「地域の中に公民館のタネはつきない」という手島勇氏の発表要旨、第2号は「人権学と公民館」に関し、新大助教授斎藤勉氏の論稿、第3号は、座談会「関プロ公研集會に学ぶ」を取り上げる予定。

その他のコラム記事は従前に引き続くので、原稿提出の期限を守ってほしいことを強調していた。

また、第一日目の昼食は、参加費とは別に、希望者に五百円で斡旋することとなる。



左から小川、笠原、柳沢、関、久保田、山川の編集委員諸氏

にしたものである。

なお、佐渡公連会長山田佐一氏(赤泊公民館長)から、主管として精いっぱい努力をするので、多少の不便はあるが、多数の参加者が得られるよう協力願いたい旨のあいさつがあった。

続いて意見交換(次頁参照)の後、15時30分定刻に会議を終了した。

組織の充実化を話しあう

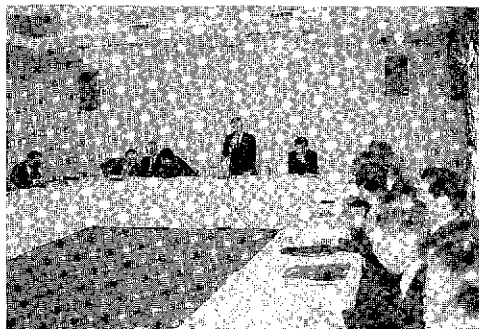
第2回評議員会において、審議事項終了のあと、当県公連の組織の充実化について活発な意見交換がなされた。

当県公連の組織の不十分さから、組織的活動の問題点が、このたびの関プロ公研集会の主要業務を遂行する過程で浮き彫りになったとして事務局から指摘されたものである。

それは、優れた活動を展開している他の都県公連では、きまって内部組織として、専門部

活動、つまり、館長部会・主事部会が設置されている。当県の場合これらの専門部が姿を消して久しいことから、再設置の必要を訴えたものである。

当県にはいつころまで機能していたのか？ どのような規模のものが考えられるのか？ など活発な意見交換のあと、少なくとも主事部会の設置が必要であると、事務局に具体案の作成が求められた。



関プロ公研集會印象記

すっぱだかな論じ合い

石橋 馨



今年「生涯学習推進と公民館の役割」をテーマ

とした四年次の研修にあたる。

四つの今日的課題として多様化・学習情報・地域活動・職員体制が掲げられ、即、基調提案とされている。

は る ひ

温泉に浸っての語らい、寝食をともし、杯を交わしてやすらぐ合宿研修のエネルギーによるものである。

大会運営・所属分科会の設置・人数は適切で実践発表は印象に残っている。参加者の一人として公民館職員の専門性を高める手だて、分科会主題の焦点化、生涯学習社会をむかえて地域指導者の育成方策などのつこみを期待したい。

大会資料を早々に送ってくださった、事前研修に役立った。大会事務局のご苦勞が察せられお礼を申しあげる次第である。(長岡市公民館 運営審議会委員)

辛 口

健康づくりにテーマをとり、方々に活かして活動の機会を得ているが、先日も或る高年者のサークルで「ペタントク」ゲームを楽しんでいた。男性22名、女性6名の参加者

中高年者の健康づくり

田中 隆子

「楽しかったので今後も続けていきたい」と書かれたあとに、施設や用具に対する希望と、これからの高齢者対策に対する意見や要望が書かれてあった。

「よりすばらしく生きる」ために、人々の健康志向が最大に高まってきていることがうかがえる。雨天が多く、冬の長いこの地方で、今、人々

余暇時代到来の今、とくに老後の増大している自由時間の過ごし方については、誰しも抱える大きな課題である。「ただ生きる」より必要なことの一つは、地域住民に近くて利用しやすい屋内運動施設であると思う。行政レベルで、或いは企業などのさまざまな組織・団体とも連携していくことが必要ではないか。

地域社会の生涯学習を支援していく公民館は、まさに住民の心の支えであり寄り所である。小さな声の大きな願いに傾聴され、努力されることをのぞむ。

(上越市在住)

大会のねらいは単なるお祭りだけではないと思う。行政理事者の理解・他都県の同志との生の情報交換・本音をぶつけ合う自己啓発に意義を見いだしたい。

大会資料を早々に送ってくださった、事前研修に役立った。大会事務局のご苦勞が察せられお礼を申しあげる次第である。(長岡市公民館 運営審議会委員)



第 1 回新潟県シルバーフェスティバル

(新潟県長寿社会振興財団)

発表者紹介

聖籠町公民館社会教育主事 手島 勇 平

昭和五十二年聖籠町住人となり一町民として子どもの活動に関わる。この年、町の砂取り場で児童の生き埋め事故にあい子どもの課外活動と公民館の関係に関心を持つ。

五十四年町職員に採用され、公民館に勤務。同年社会教育主事となり、以来、町の社会教育の推進に尽くしている。

目下、二市北蒲原郡公連の理論的・実験的リーダーとして活躍中の人。



手島氏

集会に学ぶ(1) が生きている 育主事 手島勇平

一、はじめに 手作りの成人式

聖籠町は新潟市に隣接する半農半漁の町。東工業港の關係で不交付団体になっている町でもありません。当時の子どもたちへの教育環境は、町立幼稚園3、小学校3、中学校3、高校は町内には有りませんので、周辺の市部の高校に通っています。

子どもたちと公民館との関わりという面を見ますと、幼・小・中学校時代には、PTAの活動をおしたり、図書館の利用とか、スポーツ活動をおしたりして公民館とのつながりはあるのですが、その同じ子どもたちが高校生になると公民館に姿を見せなくなります。その理由として考えられることは、青年団の解散などにより、公民館では青年の求めるものを把握できないことによるためでしょう。

それを、もっと掘下げて見ると「子ども会」の活動が大人の主導のいわゆる「幽霊子ども会」つまり、夏になると大人が子どものために何かをしてやるといったもので、子どもたち自らの発想でないもの、子どもたちの手によって企画したり実施するということのないところに、青年になつてからも主体性が欠

如したままになっていくのではなにかと考えます。そうした状況のなかで(昭和54年に)公民館主事になった私は、成人式の担当になっていました。

二、最初の五年間

青年が公民館に足を運ぶ唯一の機会としての成人式(公民館が主管して実施は聖籠町)を契機に青年の足を公民館に向けさせようと考えました。当時の成人式は、式服の簡素化と帰省時期を狙って、毎年八月十五日に行っています。式典後の記念行事を青年たちにとって意義深いものにしたという願いをこめて企画をたてるのですが、イベ

ントが講演会のためか、主役の筈の青年たちは、ざわついて、司会者に注意されるような有様でした。青年たちに「有意義な講演なのだから静かに聞いて欲しい」という私の思いが先走っているだけで、青年たちが何を考え、何を欲しているのかを知らずに企画を立てていたことを反省しました。

三、手作り成人式に挑戦

それから五年後「子ども会」の活動で関わった顔見知りの子どもたちが成人式を迎える年になりました。その時の子ども(青年)たちに「自分たちのやりたい成人式にしよう」と呼び掛けました。彼らは「何をやっていいか分からないけれど、何かをやってみたい」という意欲的な姿を示してくれたのが、「手作り成人式」の出発点になりました。

五月ころから、町内在住の青年に呼び掛け、週一回公民館で相談会を開き、八月十五日に向けて話し合いを始めました。私自身も、これといって具体的なイメージを持ってはいるわけではありません。ただ「何かをやろう」「一緒に作ろう」という思いだけでした。

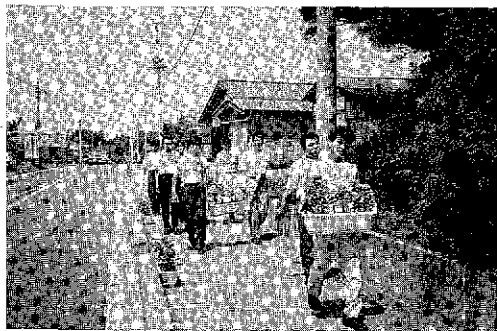
話し合いはなかなかスムーズには行きません。しかし、話し合っているうちにはつきりして

きたのは「とにかく目立ちたい」ということでした。そして、難産の末に、一年目(昭和五十九年)の事業として「町内一周交通安全聖火リレー」が実施される運びになりました。目立ちたい」という主張をいかして、車に乗り尧煙筒を聖火にして振りかざしながら町内を一周しようというものです。警察はお盆の混雑する時期ということもあって始めは難色を示していましたが、青年たちの熱意にほだされ、青年たちの熱意にほだされ二台のパトカーで先導してくることで許可になりました。平素はパトカーに取り締まれる側の青年たちが、この日ばかりはパトカーの先導によるものですから大変得意でした。

二年目(昭和60年)のイベントは「俺たちの風」のせてアフリカへ愛を」という募金活動で飢饉に苦しむアフリカの救援募金活動でした。

三年目は(昭和61年)「飲んだらべじやるな、べじやるなら飲むな!」(べじやるな:捨てるな)という空き缶拾いのクリーン作戦。

四年目(昭和62年)「共存、共生、共働の心」は、家庭で眠っている品物を寄付してもらい、それをバザールで売った益金をその年開設した町の福祉作業所に寄贈しようというもので十八



シリーズ 関プロ公研 地域に公民館の夕ネ

全体
発表

北蒲原郡聖籠町社会教

万円ほどの収益をあげました。

五年目(昭和63年)「愛する聖

籠、花でより美しく」は町内三
軒の舗道に花壇を作り、フラ
ワロードにしようというもの
でした。

このように、この五年間の取
り組みから、その後も毎年何等
かのイベントを実施していま
す。

大人から見れば他愛ない事業
であります。地域に結び付い
た課題については、一つのヒン
トさえあれば、彼らなりの発想
により、青年でなければできな
い行動力を発揮しました。

四、その成果

これらの積み重ねの活動は地
域の人々から認められ評価され
ました。そのことが彼等の自信
となつてその後の活動に受け継
がれております。

今年一月十四日の朝日新聞
「声」欄に当町出身の横浜市在
住の方の一文が載ってしまし
た。

(別表参照)

もう一つ、手づくり成人式に
かかわった青年が町主催の青少
年育成研修会の席上で発表した
要旨を紹介しましょう。

『七月の暑いさなかに、プラン

二十歳の記念 意識ある日に

横浜市 本宮 久美子
(主婦37歳)

一月十五日の成人の日が近づ
いた。今年もまた、横浜市で新
成人の入場制限があるかも知れ
ないという。昨年のアトラク
ションが人気歌手だったため、
予想以上に出席率が高かったた
めだという。何とも情けないお
祭り騒ぎをしているとしか思え
ません。そこで私の郷里での
ちよつと変つた成人式を紹介し
たいと思います。

郷里ではもう二十年年以上も
前から、成人式を八月十五日に
変えています。理由は振りそで
を買えない人や、県外に就職、
進学している人たちへの配慮か
らだと思えます。そのおかげか、
出席率は相当に高いようです。

また、式典だけに終わらせず、
成人の記念に何か町の役に立つ
ことをしようと、毎年、その時々
に必要な行事をします。ある年
は町のクリーン作戦として、み
んなで町中のゴミを拾つたり、
ある年は町中にプランターを
飾つたりしました。昨年はめい
が成人式を迎えました。スロー

ガンは「老人と緑を大切に」で
した。朝早くから出かけ、式典
の後、グループごとに分かれて
七十歳のお年寄りを慰問して話
を聞き、レポートにまとめ、最
後にまた会場に集まるという、
一日がかりの成人式だったよう
です。

小さな田舎町で、一月十五日
という成人の日にこだわること
なく、独自の式をやり、社会に
貢献できる成人を、と考えてい
る町もあることを知っていただ
きたいと思いました。

(朝日新聞一月十四日)

ター集め、堆肥づくり、苗植え
等に汗を流しました。かなりの
苦労がありました。準備に仲間
が集まらなかつたからです。こ
れを「最近の若い奴は責任感が
ない」と思ふかも知れませんが
が(中には本当に不真面目なも
のもおりますが)、参加できな
かつた多くのものは、公民館に
使用時間の制約があり、仕事を
持っているため来たくとも来れ
ない事情があつたのです。

さて、式典終了後はいよいよ
プランター設置です。準備段階
で参加できなかった者も、帰省
してきた者もみな一緒になり積
極的に働いてくれたので、予想
以上に早く終わりました。「町の
ため」という気持より「自分た
ちで行動をおこしている」こと
の素晴らしさと充実感でした。

翌日から八月いっぱい水や
りの作業が残っています。水や
りの回を重ねるうちに花の名前
を覚えたり、花への愛情が湧い
てもきました。また、プランター
の近くの家の人が水やりを手
伝ってくれたり、わたしたちが
水やり作業をしていると車をわ
ざわざ停めてジュースの差し入
れをしてくれたり「ご苦労様」
と声を掛けてくれる人もおり随
分励みになりました。

九月になってプランターを撤
去した後は、その道を通るたび

に、淋しいような、そつべね(味
気ない)気持ちにさせられまし
た。と同時に、今までの自分は、
ある権威を持った者から与えら
れた仕事に受動的に従うか、反
抗するかのどちらかでしたが、
このイベントに参加して、主体
的な行動によつて得られる充実
感・爽快感とともに、周囲の大
人からの暖かい支援や優しさに
触れることができて最高の体験
でした。」

五、手作り成人式のまとめ

「手作り成人式」以前の成人
式は、公民館主事つまりわたし
だけの思いが空回りしたイベン
トでした。新成人たちに、立派
に大人になってほしいと願うあ
まりに、誰のための成人式なの
かということをおぼろげに忘れ
ていたことに気がつきました。

「今年も、もうイベントのタ
ネは尽きたらう」と心配して
くれる人が毎年おられます。しか
し、地域にはいろんなタネ(課
題)が落ちています。青年たち
はそのタネを拾い集めてはその
年々のイベントに生かしている
のですから、地域の生活に課題
が無くなる限り、簡単にタ
ネが尽きるといふものにはあり
ません。公民館はそのタネを芽
吹かせてやるところだと思いま
す。

長寿社会フォーラム

12月3日

県民会館

(新瀧県長寿社会振興財団)

おばさんたちの「本づくり」

一、食生活改善推進員のおばさんたち

どこの市町村にもあると思えますが「食生活改善推進協議会」(女性五十名で組織)という組織があり、当町では町長部局の保健衛生課に事務局があります。ここではあえて「おばさん」と呼ぶことにします。

昭和五十五年頃のことです。町の保健婦から、聖籠町の子どものたちの食事や生活の問題点を聞かされました。例えば、インスタント食品の取りすぎ、添加物や砂糖の取りすぎ、テレビを見ながらの食事マナーのこと等々です。

早速おばさんたちは、この弊害について、子どもを持つ若い母親たちにこのことを知らせようと思いました。しかし、若い母親たちの「何言ってるのよ!」という態度に接し、がっかりはしましたが、なんとか分ってもらいたいという思いで一杯でした。そこで、考えだしたのが、若い母親たちとの食事の交流会を開催しそこで理解を図ろうということでした。

昭和五十九年と六十年の二年にわたり料理づくりをおして交流会をやりました。その時

若い母親たちから「わたしたちは、お姑さまからもっともって教えてもらいたいです」という発言が出ました。その言葉で、おばさんたちは、「若い人たちは私らとの触れ合いを望んでいる。また、私らにはまだまだこの町のいいところを多く知っている。そして、それらのことを若い人たちに伝えていく必要がある。」と反省しました。

その結果、今残っているこの町のよいところを、大げさに言えば、この町の文化を伝え残したい、そのための「本づくり」に取り組みようという考えにまで発展しました。そして公民館へ「本づくり」について相談にやってきました。

おばさんたちの「本づくり」こそは、まさに、食生活という分野での地域に根ざした活動でありますから、公民館の事業でもあると考え、館長の許可を得て(保健衛生の事業に)その仕事に關わったわけです。

おばさんたち七名、保健婦と公民館主事(私)の九名です。

二、聞き取り活動を開始

古老たちへの聞き取り調査を開始し二年後の昭和六十三年にようやく原稿がまとまりました

た。翌年の春三月「聖籠町の食文化をたずねて」というタイトルの本が出来上がりました。この本づくりに取り掛かるうとしたころのおばさんたちは、「聖籠に「文化」と呼ばれるものなんなある筈はない!」と言っていました。が、作業をはじめると昔の人々の生きざまがよく分かり、これが「文化」なの



だと実感するようになりました。

三、「本づくり」のまとめ

子どもたちの健康づくりのことから始められた本づくりの活動なのだから最後は「文化」として子どもたちに返してやることになりました。中学校の夏休みを利用して、

学校へ出向き、この本をテキストにして、生徒たちに食生活の学習とともに調理の実習や試食会をおこないました。講師は当然のことながらおばさんたちで

生涯学習の推進と公民館

「地域に根ざす」べき公民館の事業が、今どんなふう展開されているのでしょうか。行政の効率化の見地から、カルチャーセンターへの統合とか、民間施設への委託といったことが囁かれております。たしかに、生涯学習は公民館の専売特許ではなくなりました。本庁部局でも社会教育的な事業が行われつつあります。また、デパートや新聞社・電力会社でも優れて高度な事業を実施しております。専門学校では資格がとれ、就職に有利だとも聞きます。これらに対して公民館はどう立ち向うたら良いのでしょうか。

公民館は三つのタイプに区分されるように思います。

- 1 貸し公民館―施設は立派だが、職員はもっぱら施設の維持管理や貸し出し業務で、住民にとっては単なる集会所。
- 2 行事公民館―春は各種団体の総会、夏はスポーツ大会、秋は文化祭と恒例の年中行事に追い廻される公民館。

した。生徒たちは、自分たちの郷土に根づいた食生活や食文化を理解するとともに自分たちの日常の生活についても反省の機会にしてくれました。

3 スーパーマーケット公民館

趣味や教養娯楽など住民の求めに応じたメニューを商品のごとくならば住民はそれを選ぶだけ。まさに直ぐ食べられるパック詰めの商品を並べたスーパーマーケット公民館。

たしかに、施設の提供は公民館の事業の第一歩です。また、地域の伝統行事の保存や推進役も公民館の仕事です。ゆとりの時間を趣味や教養に使いたいという住民のニーズに答える必要もあります。しかし、それだけに安住していてよいものではないか。

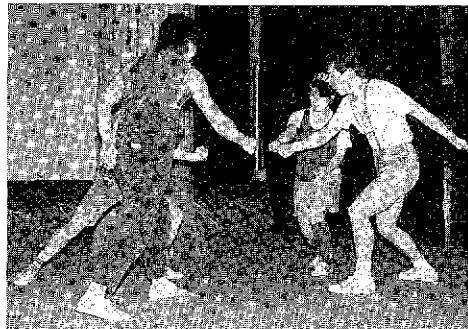
今こそ「生涯学習時代の公民館の役割」として地域に根ざした活動を掘り起こすべき時だと思えます。

「公民館の歌」が示しているように「郷土を興すよるこび」も「郷土を拓くゆかしさ」も「郷土に生きるたのしさ」もみんな「公民館の集いから」であります。

サークル交流

青年交流の場づくりをめざして 大和町「演劇塾さわらび」

村の祭の開催もままならない中、リーダーとして自主的に活動できる青年の育成と新しくできるホール(さわらび)の活用を図るべく、当時女子高校生だった二人の少女を中心として「大和町演劇サークル」としてスタートしたのが昭和六十年三月でした。活動を始めてはみたものの誰も演劇を知らなかった。見たこともない。稽古の方法も知らない。指導者もいない。そんな中でもお互いに知って



ることを教えあって半年かかった九月、「さわらび」オープンの第一回発表会「異邦人」の構想が生れました。新ホールのこけら落としという周囲の期待を大きく裏切りましたが、めげずに十一月脚本完成、新年から舞台稽古という中、主役が国際大学のインド人留学生ラジャールさんに交替するなどのアクシデントもありましたが、満場の客席と感動を共有することができました。

都合六回の舞台後一年程充電していましたが、この九月より活動再開、ご支援をお願いします。(演劇塾前代表 上村忠雄 記)

学習を生かしてボランティアへ 小千谷キッチンググループ

昭和四十三年頃、公民館事業の一つとして、調理実習を主とした勉強会が開かれました。

昭和四十八年に独立、サークル「キッチンググループ」として月一回講師を招いて料理の学習をしてきました。

昭和六十一年、市内の一人暮らし老人の組織である「あけびの会」に対して、月一回会食ボランティアを始めました。献立



も栄養士、調理士に頼まず自分で考えます。珍らしい料理よりも手のこんだものが喜ばれますので、季節感に溢れ、パランスのとれた食事と想っています。会員同士がそれぞれの味を出すという事で、お互いに教えられたり教えたりしながら作業をやっています。

先般、新潟日報社主催の「がんばる女性のがんばれ支援事業」に一会員が応募し、奨励賞、支援金をいただきました。

会員一同協力し合って、時には研修会を持ちながら、ボランティア活動を続けていきたいと思っています。

小林チサ子 記

西蒲原郡月潟村公民館主事

田村 正 法氏 (39歳)

公民館勤務十五年目、年齢、キャリア共に超ベテランの働き盛りの彼、スポーツ行事が好きだと言う。優しく、親切で、面倒見のよいことを辛いに、老人会は、一にも二にも彼に頼りっぱなしである。



閉庁後も居残って、納得のいくまで仕事をするファイトマンである。

ラムや要項作りはお手のもの。経験や場数は彼の強味である。第23回村民運動会には、ブルボン勤務のブラジル人の初参加で、企画から運営まで随分気を使ったとのこと、結果はすく盛り上がり、上々の首尾であったことを素直に喜ぶ。

奥様は村の保健婦として活躍、ご円満なご家庭に小六を頭に二男一女あり、僧侶の肩書きも持つ。スポーツ万能、特にスキー、野球がうまい。今後益々の活躍が期待される場所である。(月潟村公民館長 植村 脩 記)

素顔 拝見

六日町公民館主事

佐藤 節 子さん

七月一日付けで公民館勤務になったばかりという佐藤さん。まだ、二か月しか経っていないのに関プロ公研集会の実行委員の一員として湯沢カルチャーセンターで黙々と働いている姿が印象的だった。



そして、公民館の印象は？という間に、「とにかくサービスのエリアが広いこと。住民に直接接する仕事なので、楽しいような怖いような」と、率直な感想を語ってくれた。更に、町民の巨大なエネルギー(町づくりの意か?)にくらべたら職員一人一人の力は微々たるものだということを実感で味わっているという。その感覚こそが、公民館職として最も大事なことです。頑張り節子さん! (上村 記)

「会計係でしたから、伝票とにらめっこばかり。ですから他のことは何も見えなかったんで戸迷うことばかりです。」とおっしゃる。



「にいがたオアシス21」を創刊

長寿社会振興財団で

県長寿社会振興財団では、このほど「にいがたオアシス21」を創刊した。

明るく活力のある長寿社会に向け、高齢者が健康で生きがいのある生活を過ごすことを

正しい税の知識を

県租税教育

推進協が発足

県租税教育推進協議会の設立総会が10月28日、新潟市内のホテルで開催された。

県内の教育機関と税務関係機関が協力して、子供達はもとより大人にも税についての正しい知識を広めようというもの。

会長には、県教委の堀川教育長が選任された。また、当県公連会長も正会員として構成メンバーの一員になっている。

今後具体的な事業が企画実施される運びとなるが、公民館の学級・講座に活用できるものになる予定である。

ちなみに、11月8日には、税を知る週間によせて「河内さくら」の税金料理教室」がテレビで放映された。

願った総合情報雑誌である。A4判20頁のカラー刷りの読みやすいもの。インタビュー記事、健康づくりへのアドバイスや相談、旅行案内からヘルシー料理などなど高齢者向けの楽しい読みものが満載されている。公民館の高齢者学級やグループ活動のための参考資料として活用できるものである。

県内市町村には関係部署や図

書館など教育施設や老人グループ等にも配布されるというから利用しやすいものと思われる。

今年度は、財団そのものが設立したばかりというところもあって、この創刊号と来年2月に第2号を発行する計画であるが、

来年度は年間4回刊行、やがては隔月刊行を予定している由。



活用がのぞまれる。

おわびと訂正

県公民館月報10月号(第四六

全国公民館名鑑

平成3年度版

全国公民館連合会 編著

B5判・550頁
定価 3,800円(本体3,600円) 千380円

特徴

1. 全国公民館の所在地、定員、施設、特色、活動内容、施設等を収録した。
2. 日本全国の公民館が5年に1回編行する、唯一の公民館名鑑の平成版年度版。
3. 生涯学習の拠点、公民館が幅広く活動の場、情報交換の場、研究の場、相互に連携し、発展に資する公民館一覧を収録した。

編集

- 各別記として
1. 全国公民館連合会編著
 2. 都道府県別公民館連合会編
- 本名鑑は、全国公民館連合会が、各都道府県公民館連合会と連携し、編集・発行している。本名鑑は、全国公民館連合会が、各都道府県公民館連合会と連携し、編集・発行している。本名鑑は、全国公民館連合会が、各都道府県公民館連合会と連携し、編集・発行している。

20部以上まとめて購入すると送料は出版社負担となります。11月25日までに、当県公連事務局へ申し込んでください。
新潟市川端町2-9 県林業会館内
Tel 025-224-6073

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清 一
編集人 事務局長 上村 拾二郎
【定価1部 120円 千共・年鑑 1,440円】

◆長岡市中央公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受賞。まことにめでとうございます。表彰内容の紹介は次号にゆずるとして、取りあえず速報します。

◆十一月二十日実施予定の公民館長研修、参加申込みの十一月十日を待たずに、十月中旬に定員をオーバーしてしまいました。会場の都合で、断腸の思いでお断りした館長さんが数人となりました。来年はもっと広い会場だと考えています。(上村記)

四号) 三面所載の「辛口」欄の浅野マサ子氏と、同面「ひろば」欄の宝地定子さんの顔写真が入れ変っておりまして。不手際により、大変ご迷惑をおかけしたことを衷心からおわび申しあげ謹んで訂正いたします。

あとがき